

新卒理系行政官の1年

ここでは、新入職員の1年間を紹介します。



羽田野 龍一

消防庁危険物保安室 施設係・指導調査係

東日本大震災をきっかけに、自然災害などで誰かが困っている時に動ける人になりたいと思い、非常時に消防の司令塔として活躍する消防庁に入庁しました。

入庁直後に発生した熊本地震をはじめ、今年度は災害が多く苦労しましたが、国民の安心・安全のために少しでも役に立てればと改めて強い気持ちを持ちました。



平山 貴至

消防庁予防課設備係

研究室で学んだ火災安全工学に関する知識や経験を活かし、人命や財産を守ることに繋がる業務に携わりたいと思い、入庁しました。現在は、近年増加している物流倉庫の火災予防について検討しており、今後も日本の抱える多様な問題に対し、消防の立場で解決できることを考えていきたいです。

羽田野&平山 羽田野 平山

- 消防庁入庁
- 熊本地震発生による震災対応
震災時における情報集約業務を初めて経験、被災地に電話をかけ、被害状況についてとりまとめ

入庁～夏頃までは初任実務研修や初めての災害対応でめまぐるしく経験を重ねました。

- 北海道・岩手県における台風10号による災害対応



秋頃には業務にも慣れ、検討会の資料を作成したり、消防庁の戦力としてがんばっています。

- 危険物事故防止対策のための新たな分類指標作成の検討会を開催
- 新たな分類指標を作成する上で参考となる海外の指標について調査
- 国土強靱化や東京オリンピック・パラリンピックにおける危険物施設の安全対策のあり方を検討

- 熊本地震における軽油等の燃料の取り扱い状況の報告書作成
- 全国の都道府県や消防本部へ注意喚起

- 優良消防用設備等表彰審査会を開催
- 消防用設備等について他の模範となるものを実験結果を見ながら検討

- 外国人来訪者等が利用する施設における避難誘導のあり方等に関する検討部会
- 消防庁予防課主催の東京オリンピック・パラリンピックに関する検討会の調整、資料作成

- 新潟県糸魚川市大規模火災対応
- 埼玉県三芳町倉庫火災を受け、物流倉庫の防火対策について検討

生き生き働く！消防庁の女性職員

WLB(仕事と生活の調和)のための制度 (平成28年7月現在)

WLBのための制度は、常に改善、見直しを行っています。

3歳未満の子どもを養育する場合 育児休暇 <small>配偶者の就業等の状況にかかわらず取得可能</small>	出産する場合 産前・産後休暇 <small>産前6週間、産後は8週間 (多胎妊娠の場合は産前14週間)</small>	生後1年未満の子を養育する場合 保育時間 <small>子が1歳に達するまで、1日2回それぞれ30分以内</small>	小学校就学前の子どもを養育する場合 育児短時間勤務 <small>勤務時間を1日3時間55分(週19時間35分)等に短縮</small>
小学校就学前の子どもを養育する場合 育児時間 <small>1日の勤務時間の一部(2時間まで)を勤務しないことが可能</small>	小学校就学前の子どもを看護する場合 子の看護休暇 <small>年5日(対象となる子が2人以上の場合は年10日)</small>	小学校就学前の子どもを養育、放課後児童クラブ等に通う小学生の子どもを送り迎え、又は父母等を介護する場合 早出遅出勤務 <small>始業・終業時刻を繰上げ又は繰り下げて勤務</small>	小学校就学前の子どもを養育、又は父母等を介護する場合 深夜勤務・超過勤務制限 <small>深夜勤務は免除 超過勤務は月24時間・年150時間以内に制限</small>
3歳未満の子どもを養育する場合 超過勤務の免除	配偶者、父母、子、祖父母、孫、兄弟姉妹等を介護する場合 介護休暇 <small>6ヶ月の期間内で必要と認められる期間</small>	配偶者、父母、子、祖父母、孫、兄弟姉妹等の介護等を行う場合 短期介護休暇 <small>年5日(対象となる要介護者が2人以上の場合は年10日)</small>	外国で勤務等をする配偶者と外国において生活を共にする場合 配偶者同行休業 <small>3年を超えない範囲内</small>

私の働き方

私は、阪神淡路大震災での被災経験から、「社会の制度や仕組みを整えることで、災害からの被害軽減を図ろう」と考え、消防庁に入庁しました。入庁して8年になりますが、時には災害現場に駆けつけたり、時には新しい消火設備の消火能力を検証するための実験を企画したりと、常に安心・安全に関する仕事ができたと、学生時代に学んだ理系の知識を政策立案に活かしてこれたことは非常に良かったと感じています。

職場の同じ係には、仕事と子育てを両立している女性の上司と地方の消防機関から派遣されてきている消防吏員の女性職員がい

ます。それぞれの道で、女性の活躍する場を切り開いている姿を見ると、とても頼もしく感じます。

プライベートでは昨年結婚し、平日は仕事に集中、休日は夫とのんびり過ごすといったメリハリのある日々を過ごしています。最近では男性職員も育休を取得したり、テレワーク(在宅勤務)を活用し、育児と両立している職員が増えて来ています。私もこういった制度を活用しながら、プライベートの様々なタイミングにあわせながらキャリアアップしていきたいなと思っています。



中嶋 仁美

なかじま ひとみ

消防庁 総務課 企画係長 併任
消防・救急課 係長

- 平成21年 入庁 消防庁予防課
- 平成22年 東京消防庁
- 平成24年 消防庁国民保護運用室 運用係長・テロ対策係長
- 平成25年 消防庁危険物保安室 危険物施設係長
- 平成27年 消防庁総務課企画係長
- 平成29年 現職



職場の女性職員とプレイクタイム。笑い話をしてリラックスしたり、仕事への熱い思いを語り合って刺激を受けたりしています。